

別紙 発表者(令和6年度後期チャレンジャー)

【敬称略、五十音順】

<p>【衣類リユースの推進を目指した地域コミュニティの運営】</p> <p>池江 なつみ</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>県央地域を中心に、「着たい服」と「着なくなった服」を交換する「ファッションスワップ(衣服交換会)」を実施し、ファッションの楽しみを広げながら、衣類廃棄物の削減に貢献できるコミュニティを運営する。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>「まだ着られるのに捨てられてしまう服がもったいない」という気持ちから衣類廃棄物問題に関心を持ち、地域で洋服を循環するイベントを開催することで、この問題の解決に少しでも貢献できるのではないかと考えたこと。</p>
<p>【感謝の気持ちを寄付につなげるユーザー投稿型アプリの開発】</p> <p>宇佐美 萌美</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>親切にしてもらった経験を感謝の言葉とあわせて投稿し、その投稿数や反応数に応じて慈善団体へ寄付※することができるオンラインアプリを開発する。</p> <p>※寄付の原資は、この取組の賛同企業からの広告収入を充てる。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>自身が妊娠・出産した際、多くの人に支えられ、その感謝の気持ちを社会に還元できるような仕組みをつくりたいと考えたこと。</p>
<p>【高齢者のための安全・安心運転サービスの開発】</p> <p>北村 奈那</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>高齢者の事故予防と安全運転を楽しく習慣化するため、運転の際の反応速度や危機回避能力を評価する診断サービスや、安全運転を学習できるデジタルブックによる、VRを活用した運転シミュレーションサービスを開発する。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>高齢者の免許返納の難しさや事故増加を目の当たりにし、ドライバーへのヒアリングで感じた「運転は自由と自立の象徴」という想いを尊重しながら、安全運転を促進し、家族や地域社会が安心できる新しい仕組みを提供したいと考えたこと。</p>

<p>【地域コミュニティの活性化を目的とした映像メディア総合サービスの提供】</p> <p>坂本 健一</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>町内会をはじめとする地域コミュニティが、住民に向けて街の魅力を発信できる「WEBメディア運営」「イベント企画」サービスを提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>映像ディレクターとして全国の自治体が取り組む地域創生事例を取材する中で、「多くの人が地域コミュニティに参加できる環境づくり」と、「自分が住んでいる地域への関心を高めること」の重要性を実感し、地域の人々に「自分の街が好き」と思ってもらいたいと考えたこと。</p>
<p>【眠気の検出によるドライバー向け居眠り運転防止サービスの開発】</p> <p>高橋 賢剛</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>目の瞬きや脈拍から眠気を検出し、「居眠りを始める前の予兆」を知らせる車載用スマートフォンアプリを開発する。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>学生時代、講義中に居眠りをしてしまった経験から、趣味で居眠り防止システムの試作品を開発したが、長距離ドライバーの事故が多発している現在、長距離ドライバー向け居眠り防止サービスとして展開できるのではないかと考えたこと。</p>
<p>【県央地域の企業向け障がい者雇用支援・定着サービスの提供】</p> <p>増子 寿和</p>
<p>【事業の概要】</p> <p>県央地域の企業を主な対象として、障がい者雇用の環境整備に向けて、既存の「雇用支援」サービスに加え、企業担当者の人材育成や研修等の「定着支援」サービスもあわせて提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】</p> <p>作業療法士として障がい者の就労支援に関わってきた中で、企業が障がい者を雇用した後の定着を支援することが、企業の人材確保と障がい者の安定就労を実現する上で必要であると考えたこと。</p>

【起業家に向けた業務プロセス改善サービスの提供】

山本 亮介

【事業の概要】

起業家が、自身の実現したいビジョンや想いを可視化することにより、事業優先度を明確化し、業務プロセスの改善を支援するサービスを提供する。

【取り組むきっかけ】

個人事業主として、「製品・サービスの開発」や「人材獲得」など、多忙な業務を行っていた自身の経験から、業務効率化を実現するためには、「やりたいこと」や「実現したいこと」を明らかにする必要があると感じたこと。

【ペットを看病する飼い主に向けた治療サポートサービスの開発】

鷲沼 輝勝

【事業の概要】

飼い主が記録した日々のペットの情報について、ペットが病気にかかった際、治療に必要な情報を獣医師と共有できるソフトウェアサービスを開発する。

【取り組むきっかけ】

獣医師としての自身の経験から、獣医師と飼い主との対話が治療に重要であることを実感し、不安を抱える飼い主に獣医師が寄り添い、両者が協力したペット治療をサポートできるサービスを開発したいと考えたこと。